

# ブリーフィング資料：不登校になれなかった苦難と「虎井おん」の軌跡

## エグゼクティブ・サマリー

本資料は、不登校支援コミュニティ「ハートスクール」による、発達障害を抱えるVTuber・虎井おん氏へのインタビュー内容をまとめたものである。

虎井氏の経験は、一般的にイメージされる「学校に行かない不登校」ではなく、「学校に行きたくても休ませてもらえない」「不登校になりきれなかった」という、制度や統計の隙間にこぼれ落ちる苦難に焦点を当てている。家庭内での過酷な教育プレッシャー、学校でのいじめ、そして自己選択権の剥奪という多重の困難を経て、彼女がいかにしてインターネットや趣味の中に居場所を見出し、現在の自己実現(VTuber・イラストレーターとしての活動)に至ったかを詳述する。

主な論点は以下の通りである：

- 「不登校失敗」の概念：学校へ行くことを強制され続け、逃げ場を失ったことによる精神的摩耗。
- 家庭内の教育虐待的側面：親による進路の絶対的な管理と、心理的な圧迫。
- 代替居場所の重要性：パトントワリングやインターネットコミュニティが、生存のための唯一の「安全地帯」となった点。
- 回復と克服：過去の呪縛を「実力で口を塞ぐ(成功を収める)」ことで乗り越え、現在は支援者側としての視点も持っている点。

## 1. 学齢期における苦難の構造：小・中・高の各フェーズ

虎井氏の学生時代は、常に「親の期待」と「本来の自己」との解離に晒されていた。

### 1.1 小学校時代：家庭内でのスパルタ教育

- 長時間学習の強制：毎日、帰宅後に父親の部屋で4～5時間の勉強を強いられた。中学受験コースのテキストを解き終えるまで、住居スペース(2階)に上がることが許されない環境であった。
- 学習のミスマッチ：基礎はできているため学校の授業は退屈で落書きばかりしていたが、受験特有の特殊な問題には納得感を持たず、苦痛を感じていた。

### 1.2 中学校時代：殺伐とした競争と体調不良

- 人間不信：成績によって順位付けされる環境下で、周囲がすべて「敵」に見えるようになり、言葉が鋭利(刃物のよう)になっていった。
- 身体症状：教室にいることに不快感と恐怖を覚え、心身の限界から保健室へ逃げ込むことが常態化した。

- コミュニティの閉鎖性：田舎特有の「保育園から変わらない人間関係」が、環境の変化への恐怖を増幅させた。

### 1.3 高校時代：いじめと「不登校失敗」

- いじめの発生：教室に馴染めず、隣の席の生徒からゴミを投げられる、授業中に嘲笑されるなどの被害を受けた。
- 不登校の拒絶：学校側がいじめを認め謝罪に来た際、虎井氏は学校を休みたいと訴えたが、両親は「負けないでよ」と拒絶。物理的に車に押し込まれるようにして登校を強制された。この経験を彼女は\*\*「不登校失敗」\*\*と表現している。

## 2. 精神的支柱となった「居場所」の分析

学校と家庭の双方に居場所を失った虎井氏にとって、以下の二要素が生存戦略として機能した。

要素	内容と効果
バントワリング	技術的には未熟だったが、17歳で指導員免許を取得。子供たちに「楽しさ」を教えることで、初めて大人から「先生」として肯定的な評価を得た。自尊心を保つ最後の砦となった。
インターネット	Twitter(現X)やニコニコ動画を通じて、共通の趣味(アーティストのファンコミュニティ等)を持つ仲間と繋がった。学校では話せない「好きなこと」を全力で語れる唯一の解放区であった。

## 3. 自己選択権の剥奪と「呪い」からの脱却

虎井氏のキャリア形成において、父親による心理的コントロールが大きな障害となった。

- 専門学校進学への妨害：イラストレーターを目指し専門学校への進学を希望した際、父親は無言で「イラストレーターの過労死や苦境を伝えるニュース記事」を30枚ほど机に置いた。この出来事は彼女の心に深い傷(呪い)を残し、長らくクリエイティブな活動への踏み切りを阻害した。
- 大学時代の転換点：親から「育て方を間違えた、好きにしろ」と突き放されたことで、放り出された不安と共に、初めて「自分で選ぶ」必要性に直面した。
- 真の学びとの出会い：大学の法学・哲学のゼミにて、自分の考えを言語化し、正当に評価される経験を通じ、学習の本来の楽しさを知った。

## 4. 現在の状況と結論

虎井氏は現在、過去の苦難を糧に、新たなキャリアを切り拓いている。

#### 4.1 現在の活動

- **VTuber・イラストレーター**：就労継続支援B型事業所「リバーワークス」のスタッフとして、VTuber「虎井おん」として活動。副業のイラストでも開業届を出すほどの成果を上げている。
- **親への「復讐」**：自分の成功（開業届や実績）を親に叩きつけることで、かつての呪縛を物理的・心理的に打破した。

#### 4.2 ソースから導き出されるメッセージ

1. 当事者へ：学校以外にも居場所は必ず存在する。インターネットを含め、怖がらずに相談してほしい。
2. サポーターへ：「学校を休みたいが逃げられない」という、不登校予備軍やグレーゾーンにいる子供たちの存在を認識してほしい。
3. 教育の本質：学習は本来楽しいものであるべきであり、正しい学び（自己表現と評価）が早期に得られる環境の整備が急務である。

虎井氏の歩みは、たとえ「不登校になれなかった」としても、別の場所で自分を再構築し、過去の傷を「終わらせたくない価値ある経験」へと昇華できることを示唆している。